

## INSPIRE No.23



僕の言う事を聞いてくれなくて  
ありがとう！

あんまりこういったフレーズって聞かないと思います。私がアメリカで中学教師をしていた時、月曜日の朝になると、日系アメリカ人の生徒が「先生、日本語学校行くの嫌だ」と文句を言いに来ていました。日本語学校は土曜日の午前中にあり、日本語のみならず、劇や文化体験などのクラスを提供しており、私が知っている日系アメリカ人の生徒はほぼ通っていました。学校というより、日系のコミュニティーです。だから、土日休みになる事はほぼありませんでした。確かに大変だと思いました。私は「行かないとJapaneseness-日本人要素がなくなるぞ」と冗談交じりに子供の話を聞いていました。どの道、中学校卒業するくらいまでは、日本語学校に行かなければならないので、文句は聞いていました。親は色々な思いを持って、子供たちを日本語学校に送っています。

こういった英語のフレーズがあります。

**“I put my foot down” 「断固として譲らない」 「立場を変えない」 「考えを変えない」**

時に、子供は色々文句を言って、親の意見を変えようとしします。その時の一言です。「I put my foot down - 考えは変わらない」という一喝です。子供が意見を持つ事は良いですが、それが全てにおいて物事を決定する最終意見ではないという事です。最後は親が決めますよね。ギフティッドの子供に多い傾向は ①快適ゾーンが狭い - 得意な事やできる事をやる傾向。②意味や意義が見出せないとコミットしない傾向。③色々な事が頭の中で完結している傾向 - 体験した事もないのに体験済みのように語る。だから、

教育に関して、物事を子供の「やる気」で決めていると、子供はどれくらい自分の快適ゾーンから飛び出して、自分をチャレンジするでしょうか。苦手な事や、楽しくなさそうな事に取り組むでしょうか。先日、日系アメリカ人の生徒とその保護者と食事した時に、彼女はお母さんに「お母さん、思春期の私の言う事を聞いてくれなくてありがとう」と言っていました。そして、「日本語学校に行って良かった。好きな作家の本を日本語で読む事ができるし、大学の友達に日本語を教える事ができし、好きなアニメを見て楽しむ事ができるしね。」もっと理不尽になっても良いんです。だって親なんですから。もっと子供に冷や汗をかかせて、自分の魅力を探求させてあげてください

## 上がれないエスカレーター

6歳就学前までは、どのギフト親も「わが子って天才!？」と親バカ満載です。当時はギフトッドという言葉も知らず、息子がギフトッド?なんて、思いもしませんでした。純粋にわが子の人生の選択肢のひとつとして、小学校お受験に挑戦させる親は少なくないのではないのでしょうか?

少なくとも私はそうでした。しかも、子供時代に大嫌いだった普通の公立小学校へ通学させるのは、一抹の恐怖感があり、自由な校風が評判の国立大学附属小学校に、母の意思でお受験をさせて合格しました。

たかが田舎の小中一貫国立大学附属校のエスカレーターですが、合格したときは天にも昇る気持ちで、このままスムーズにいけば大多数の卒業生のように、秀才エリート街道まっしぐらと、勝手に妄想して感無量でいっぱいでした。

しかし、日本に国公立エスカレーター式一貫校は数あれど、せっかく上がったエスカレーターに、最後まで上がれないのがギフトッドなのではないのでしょうか?

騙し騙しで学校へは通えていた息子ですが、思春期が早く小学生中学年には学校に期待することをやめ、学校嫌いになり休みたがり笑顔が消えてしまいました。中学は外部受験するかどうか迷いましたが、不登校までには至らず友達も少しはいたので、親子会議の結果、附属中学校のエスカレーターには上がることにしました。

しかし、問題を中学校に先延ばししただけ、思春期はサイテーで結局は中3の6月に、自らの強い意志で中退することにしました。

(中3の義務教育途中期間な為、不登校同様に卒業扱いにはなりましたが・・・)

息子を含めギフトッドその子自身や環境にもよりますが、たとえエスカレーターに上がったとしても、いつ降りてもいいよう親として覚悟だけはしておいて下さい。むしろ上がりきったら超々レアでラッキー、現実には上がれないのが大多数なのかもしれません。

これから小学校お受験や編入や転校、もしくは中学受験等を検討中のお母様、あなたのお子様がギフトッドであるならば、せっかく合格したエスカレーター式の学校だとしても、上がれないときの保険(別ルートの学びや学校等)の情報収集を今からお勧めします。今はどうにかなっているとしても、1年後、2年後のもしもの時に備えておいてください。

そして、途中で上がれない時が来たとしたら、気持ちを強くしなやかに対応して下さい。あなたのお子様だけではない、この子たちは上がれないのではなく、自らの強い意志を持って上がらないだけなので全く問題ありません。

実は日本中の大人ギフトッドの先輩方も、どこかの時点で中退という、少し苦い体験をしてるのではないのでしょうか?ただ、自分がギフトッドとは知らずに大人になっているだけで、現時点では才能開花している方も多いように感じます。

(例 ジョブス エジソン ビートたけし タモリ ホリエモン等々)

すでにお子様の特性に気付き、これを読んでいるそのあなた!あなたがお母様であるならば、お子様はきつときつ大丈夫です。お子様の底力を、いつの日か咲く才能開花を信じて、寄り添いましょうね! M.I.

## 優先すべきことに専念

先月入院した父は三週間で無事退院することができました。父の入院をきっかけに、「運命にどう立ち向かうべきか」について一ヶ月間考え続けました。

クリニックに来院する方の中には、「運の良い人」と「運の悪い人」がいます。「運の悪い人」は持って生まれた運の悪さもあるのですが、それだけとは思えないのです。まるで、自分から不運に巻き込まれるような行動をとるのです。自分から関わらない方が良さそうな人に近づき、トラブルに首を突っ込み、それについて悩み続けたりと。

一方の「運の良い人」は、関わらない方が良さそうな人には近づきませんし、トラブルに巻き込まれることも少ないです。どちらかという、何か前向きなことで忙しそうなのです。

この違いは何なのでしょう。考えた結果、「運の良い人」は、自分にとって優先順位の高いことに専念し、優先順位の低いことはせず、また優先順位の低いことで悩んだりはしないということがわかりました。

逆に「運の悪い人」は、優先順位が高いはずのことは、一向にやろうとせず、それを避け続け、優先順位が低そうな、やらなくてもいいことを熱心にやったり、優先順位の低いことでくよくよと悩み続けたりする傾向があります。

そのことに気づいてから、ほとんどの患者さんにこの話をしています。「あなたが生きていく上で、今は何をすることが大切ですか？」「自分のために何を頑張ることが重要ですか？」と問い続けています。

父の入院中、私にとって最も重要なことは「寝ること」でした。元々体力ギリギリのところまで生活を回していたので、全く余裕がありませんでした。そこに父の病気の心配やお見舞い、母への支援が加わると私まで倒れそうでした。そのため、余計なことは一切やらず、ひたすら早寝に専念しました。そうして何とか今回の危機を乗り越えることができました。

良かったら、皆さんも「自分は今何を優先してすべきか？」を考え、それに専念してみてください。運命にうまく立ち向かえるようになるのではないのでしょうか。

すくすくクリニック 新井

